



# 清流news

〒191-8686 東京都日野市神明1-12-1

Tel 042-514-8309

発行日 1月・7月

Vol. 136

発行  
日野市  
環境共生部  
緑と清流課

## 多摩川 浅川 クリーン作戦を実施しました



令和7年4月19日（土）、緑と清流課主催多摩川・浅川クリーン作戦を実施しました。クリーン作戦は、多くの市民の方の参加を募り、行政と協力して一級河川の清掃活動をおこなう大規模なイベントです。今年は1,200人以上の方に参加いただき、多摩川並びに浅川的环境美化にご協力いただきました。

開会式では日野市長並びに京浜河川事務所長より挨拶をいただきました。晴天にも恵まれクリーン作戦日和となりました。

日野市の一級河川を保全するためには、清掃活動による環境美化は必要不可欠です。来年度も多摩川・浅川クリーン作戦を実施したいと考えていますので、その際はご参加宜しくお願い致します。

皆様にご協力いただき集められたごみの内訳は次のとおりです。

|         |       |               |    |     |
|---------|-------|---------------|----|-----|
| 参加団体（組） | 55    | 収 集 量<br>(kg) | 可燃 | 210 |
|         |       |               | 不燃 | 530 |
| 参加人数（人） | 1,241 |               | 粗大 | 260 |

# 連携事業

## 第14回 あさかわ写真コンクール ～しぜん・ひと・まち～

『あさかわ写真コンクール』は、八王子市と日野市との中央部を貫く浅川に、良好な流域の水辺環境を創出し、心豊かなまちづくりを目指すため、両市の連携事業として行っています。

皆様に支えられ、今年の開催で14回目を迎えることができました。四季折々の浅川の姿を切り取った写真が応募され、毎年新たな浅川の魅力を発見できます。皆様からの浅川の魅力あふれる写真をお待ちしております。

募集要項は以下の通りです。



第14回 あさかわ写真コンクール ポスター

### 募 集 要 項

**募集期間** 2025年6月15日(日)～2025年8月15日(金) (必着)

**対象範囲** 浅川(北浅川)、南浅川 ※支流を除きます

**応募条件**

- ・電子データでの提出(JPEG形式、5MB以内) ※プリントした写真での応募はできません
- ・自分で撮影した作品であること
- ・未発表及び他に応募していない
- ・組み写真でないこと
- ・極端な補正、合成等の加工を行った作品でないこと
- ・撮影のため環境に人為的な加工をするなど、生きものや環境にダメージを与えずに撮った写真であること
- ・カラー、モノクロの区分はありません
- ・スマートフォンで撮影したものも応募可能です

**応募点数** 一人3点まで

**応募方法** 必要事項を明記してご応募ください。

#### 【応募方法1】応募フォームで応募

写真データ名を「作者氏名・作品名」に変更して、右の二次元コードより必要事項を入力の上、ご応募ください



#### 【応募方法2】CD-R等で応募

写真データの入ったCD-R等に、必要事項を記載したファイル等を添付して、応募先までお送りください(持ち込みも可)

※クラウドサービス等の利用による提出は不可

#### 〈必要事項〉

- ①氏名(ふりがな)      ②連絡先(住所、電話番号、メールアドレス)      ③年齢  
④コンクールを知ったきっかけ      ⑤題名(ふりがな)      ⑥撮影時期・場所  
⑦作品への想い  
※下線がひかれた項目は作品1点ごとに明記してください  
※学生の方は学校名、学年も合わせてご記載ください

**応募先** 191-8686 日野市神明1丁目12番地の1  
日野市緑と清流課 あさかわ写真コンクール担当 宛  
メールアドレス seiryu@city.hino.lg.jp

詳細な募集要項は、市のホームページで入手できます。その他、詳細は緑と清流課までお問い合わせください。

# 浅川流域

日野市と八王子市を流れる「浅川」を流域単位としてとらえ、治水、利水、水質、水辺の保全、活用をキーワードとして連携を図ることで良好な流域の水辺環境を創出し、心豊かな流域のまちづくりを目指すことを目的としています。

事業初年度の平成23年11月6日に、八王子市学園都市センターで「浅川流域『川の恵み』シンポジウム」を開催し、当時の日野市長、八王子市長、両市の子どもたちにより「八王子市・日野市流域連携共同提言」が出されました。

## 八王子市・日野市流域連携共同提言

(自然) みんなで浅川の自然や景観を大切にして、未来につなげます

(人) 人と人のふれあいの輪を広げ、ふるさとの浅川を育てます

(まち) 浅川の魅力を活かして、元気なまちをつくります

## 「川崎の干潟で遊ぼう！」の報告

みなさんは干潟で遊んだことはありますか？

干潟とは、海の水が引いたときに泥や砂が陸地となってあらわれる場所です。

川の水と海水が混ざり合う環境で、様々な生き物が暮らしています。

八王子市の子どもたちとルールを守って、安全に水遊びを楽しみながら、私たちの暮らしと水の関わりや生きもののつながり、身近な水環境の大切さを学んだ様子をご報告いたします。

### 実施概要

**対象** 市内在住の小学3・4・5・6年生

**日程** 6月14日(土) 午前8時30分～午後4時頃

**会場** 大師河原干潟館 (川崎市)

**参加人数** 23名 (日野市15名・八王子市8名)



〈イベントの様子〉



干潟で生き物探し



干潟の生き物についての講義

## 「身近な水環境の全国一斉調査」に参加しました

全国各地で水調査を行ってきた主な市民団体の代表者が集まって設立した「全国水環境マップ実行委員会」が統一的なマニュアルを作成しました。これに基づき、平成16年から、毎年、世界環境デー（6月5日）に最も近い日曜日を中心に、「身近な水環境の全国一斉調査」を市民団体と国土交通省が協働して行っています。その調査結果をもとに「浅川流域市民フォーラム」が「浅川流域水質マップ」を作成しています。こちらにも掲載しますのでご覧ください。（2024年度）

この取り組みに緑と清流課も参加して市内を流れる河川の水質を調査しています。パックテストでCODの測定を行いました。この調査はどなたでも参加可能となります。詳細は身近な水環境の一斉調査のホームページよりご確認ください。

<https://www.japan-mizumap.org/index.htm>



令和7年度  
春の一斉清掃

|         |           |
|---------|-----------|
| 参加団体（組） | 311       |
| 参加人数（人） | 約18,000   |
| 収集量（kg） | 可燃 32,690 |
|         | 不燃 470    |

次回、令和7年11月30日（日）に秋の市内一斉清掃を予定しています。【環境政策課】

市内一斉清掃は自治会、学生ボランティア等、様々な団体の方々にご協力をいただき、実施しています。当日は朝早くから、きれいなまちを維持しようと、積極的に清掃を行っていただきました。また、清掃活動を通じて、環境に対する意識向上と、皆さんの交流を深め、地域のつながりを強めるきっかけ作りとして頂ければ幸いです。今後も、市内の良好な環境保全にご協力をお願いいたします。

## 春の市内一斉清掃

市では、「日野市みんなのまちをきれいにする条例」に基づき、毎年5月（春）と11月（秋）の最終日曜日を「市内をみんなできれいにする日」としています。



## 取り組みの輪を広げる ～気候変動対策の広域化～

日野市は、令和5年度に開催した日野市気候市民会議の提言を踏まえ「気候変動対策施策ロードマップ」を作成しました。このロードマップは、行政・市民・事業者などが日野市のカーボンニュートラルの達成に向けた方針を記したもので、取り組みの方向性を7つのプロジェクトテーマを設定しています。

令和6年度は、ロードマップの方向性に基づく取り組みの一つとして「気候市民会議NEXT」と「気候YOUTH H会議」を開催しました。

### ■気候市民会議NEXT

日野市・多摩市の気候市民会議の参加者を中心に、それぞれの成果を持ち寄り、地域を超えた取り組みについて話し合う「気候市民会議NEXT」を令和7年1月11日に開催しました。

気候変動は、猛暑日の増加、サンゴの白化、極端な雨の降り方など様々な分野に影響を与えていることが指摘されています。この問題の解決には、脱炭素社会の実現が欠かせず、そのためには地域を超えた連携が重要です。

### ■気候YOUTH会議

日野市・多摩市・府中市の二十代以下の若年層を中心に、気候変動に対する取り組みについて若者同士で話し合い、アクションする「気候YOUTH会議」を令和7年3月9日・16日に開催しました。

気候変動の問題は、将来世代がその影響を大きく受ける世界規模の問題です。

世界では、若者のムーブメントが地域や国を動かすきっかけとなっており、脱炭素社会の実現には欠かせない重要な要素となっています。多摩地域でも、若者の声を踏まえた対策を検討することや、気候変動対策に取り組む若者の輪を広げていくことが重要です。

会議では、講師を招いて「若者が気候変動対策に取り組む理由」や「企画づくりのポイント」について学び、気候変動への対策としてできること・やるべきことをグループごとに考えました。自分ひとりでできること「ひとりクエスト」、誰かと・みんなで協力しないとクリアできないこと「コラボクエスト」の二つを考え、成果として18のクエストが出されました。

クエストの一部には、「様々な媒体で気候変動について発信する」、「環境に関する会議やワークショップを増やす」などがありました。

今後は若い世代を中心とした環境に関する会議の場等を提供しながら、具体的な活動を後押ししていく予定です。

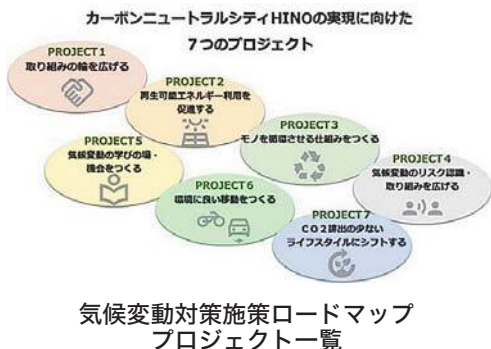
気候市民会議NEXT、気候YOUTH会議についての詳細は、日野市ホームページをご覧ください。



気候市民会議NEXT HP



気候YOUTH会議HP



気候市民会議NEXTの様子



気候市民会議NEXTのテーマ



気候YOUTH会議の様子



### ●南広間地公園 (街区公園191)

所在地…大字日野315番5／面積…189㎡／開園日…平成22年4月30日

この地域は、小字名(こあざめい)を「南広間地(みなひろまち)」といいます。大字宮(おおみや みや)地区の北部一帯を北広間地、南部一帯を南広間地といっていました。このあたりは、古墳時代(4〜5世紀)、多摩川や浅川の河川敷であったと推定される地域です。

「まち」とは、一定の区画を示す用語で、隣接地に「蘭沼(いぬま)」があるところから、低湿地帯または荒地を開拓した名残の名称で、言い換えると「北の大区画」「南の大区画」という意味だったのでしよう。この公園の北東側約300mのところには、縄文時代の遺構が多数出土しています。

### ●時計公園 (街区公園203)

所在地…大字日野320番184／面積…1,798㎡／開園日…平成31年4月1日

日野町(現日野市)では昭和11(1936)年から同15年にかけて、当時の町長の主導により5社の大規模な工場を誘致しました。そのうちの1社であるオリエント時計

(株)の前身の(株)吉田時計店の直属時計工場が昭和11年にこの地に創立されました。現在は社名の変更や統合を経て、セイコーエプソン(株)日野事業所になっています。平成28(2016)年までこの公園の場所に同社の体育館が建っていたことから命名しました。



(C) 2017 PASCO CORPORATION.

(C) 2017 INCREMENT P CORPORATION.

いかなる形式においても著作権者に無断でこの地図の全部または一部を複製し、利用することを固く禁じます。

## 用水守募集

日野市緑と清流課では、「用水守」として市内の用水路の清掃活動をおこなって下さる方を随時募集しています。

かつて東京穀倉地帯と呼ばれた日野市には、江戸時代に多摩川・浅川からひかれた農業用水路が今も市内を網の目のように流れています。これら水路の総延長は116キロにも及ぶといわれています。また、市内には数多くの湧水が湧いているなどたいへん水環境に恵まれています。日野市では、こうした恵まれた水環境を次世代に伝えるため、清掃・維持作業など様々な活動を行っています。一方で、市民の皆さまの水への関心も非常に高く、多くの方が身の回りの水辺を自ら清掃・維持してくださっています。

このような、ボランティアで水辺維持の活動をされている皆さまを少しでも支えることができると生まれたのが「日野用水守制度」です。「用水守制度」は日ごろ活動をする範囲を決め、あらかじめ「用水守」として登録いただくことで、万一の事故に備えた、市民総合賠償補償保険の対象者となります。

市では、今後も市と市民の皆さままで協力して良好な水辺の環境を維持管理・保全をしていきたいと考えております。

現在、250名以上の方が、用水守として活動しております。登録は、個人・グループ・自治会・企業など多くの方々が対象としています。ぜひ、皆さまのご参加をお待ちしております。



# 日野用水 改修記念碑



昨年は日野市市制60年でした。「日野市」が誕生したころ、多摩川、浅川沿いの低地は水田地帯、今の季節だと田んぼの緑が広がっている、そんな光景が見られました。何百年も続けられてきた「農」を中心とした営みと風景は、この60年で宅地へと激変をもたらされました。

稲作に欠かすことができない農業用水路。市内には現在でも100kmあまりの用水路があり、その中でも多摩川から取水している「日野用水」が整備されたのは、江戸時代前、まだ日野地域が北条氏の支配だった頃のことです。区画整理事業によって、下流域の様相は変わってしまいましたが、水路を上流へと向かうと、日野駅からほど近い場所にはまとまった水田があり、さらにたどるとこんな碑がひっそりと立っています。

「日野用水改修記念碑」です。

「日野の耕地は古来日野三千石と称され米穀の産額周囲の町村に比して抽でるものがあり」と始まる碑文は、かいつまめば、戦後東京の人口増大に伴って、多摩川からの取水が難しくなり、米の生産に支障をきたしてきたので、昭和29年から都合10年以上の年月と莫大な費用をかけて多摩川を横断する大堤防を完成させ、さらに日野用水と谷地川の合流部も作り直したという内容

が記されています。碑が建てられたのはすべての事業が完成した後の昭和43年、工事の間に日野は町から市へと変わっており、裏面には建設時に関わった日野最後の町長、初代市長、2代目市長の名前、用水を使用していた地区とその人数を見ることが出来ます。

今、日野用水に流れる水は、昭島と八王子にある水再生センターからの処理水排水路より上流から取水されており、文字どおりの清流です。

この碑から清流が育てた稲、用水がもたらした富が育んできた日野のあゆみ、を改めて見直すことができます。

東小宮バス停下車徒歩3分

石川堰脇



昭和40年代。8mmフィルムに残されていた日野用水改修記念碑。石川堰の脇に立っていた。左から谷地川が合流しています

## 参考 碑文

日野の耕地は古来日野三千石と称され米穀の産額周囲の町村に比して抽でるものがありその灌漑用水は多摩川の清流を引用した然るところ近年東京都水道及び土木建設の増大に従い砂礫の採取多大なものがあり多摩川河敷の低下となり日野農業用水の取水年々に困難を来たし米穀の生産に悪影響を来したことによって之が恒久的施設をなすの要切実なるものあるを感じ地元組合員関係者相謀り用水路の改善を企画し国庫補助を得都営改修事業として昭和二十九年起工した即ち八高線上流三百米に於いて多摩川横断してコンクリート三百九十米の大堰堤を築造し導水路に流入するの幹線を設けたその経費実に七千八百萬圓を費し8ヶ年の歳月を要した更に谷地川用水の石川堰も年々破壊流失するに由り都の補助金を得昭和四十年度に之が完成を告げ工事費六百八十萬圓を要した以上多年に亘る努力は真に容易ならざるものがある茲に碑石に刻んで記念するものとする

昭和四十三年二月吉日之建 田中清一書



奥からの流れが日野用水。水量を調整していた水門は現存しています



現在の様子。谷地川の流路変更に伴って日野用水改修記念碑は移設されています



## カメウォッチングの すすめ

お寺や公園の池、河川の岸辺などで、水から上がってのんびり日光浴をするカメたちのどかな風景ですが、よく探すとその中には何種類かのカメたちが混ざっています。今回は身近に見られるカメたちをご紹介します。

### ●どこでも増えるたくましさ ミシシippアカミミガメ

カメと言われてまず思い浮かぶのが、このミシシippアカミミガメかもしれません。名前の通り首の脇に赤い模様があります（大型の雄は黒化



ミシシippアカミミガメ  
(さいかち堰)

し目立たない）。アメリカ原産の外来種ですが、子亀はミドリガメと呼ばれ、ペットとして大人気に。しかし成長が早く寿命も長いことから、捨てられたり逃げ出したりして各地へ広まってしまいました。現在は条件付特定外来生物に指定され、販売や野外への放出は禁止されています。

### ●臭いからクサガメ：

背中に3本の隆起があるのが特徴で、捕まえると身を守るために足の付け根から独特の臭い匂いを出します。そのため、「臭亀」というちょっとかわいそうな名前が付けられてしまいました。かつては日本の在来種だとされていましたが、近年の研究により江戸時代以降に日本に持ち込まれた外来種の可能性が高いとされています。在来種のイシガメと交雑してしまうことが問題となっています。



クサガメ (さいかち堰)

### ●数少ない在来種 ニホンイシガメ

都内では絶滅危惧種に指定されており、市内でも個体数はかなり少ないと思われます。背中の隆起は1本で、甲羅の後ろの縁がギザギザしています。他のカメと比べ、黒く大きな腫が可愛いです。



ニホンイシガメ (程久保川)

### ●水中のスペシャリスト スッポン

平べったい体に柔らかい皮膚に覆われた甲羅、鼻先が突き出た顔や長く伸びる首など、カメの中でも特異な姿をしています。これらは全て、水中生活に特化するため。ほとんどの時間を水中で過ごし警戒心も強いので、他のカメよりも日光浴をする姿を見る機会は少ないです。こちらも都内では絶滅危惧種に指定されています。



スッポン (大栗川)

文・写真 日野の自然を守る会  
片山 敦

### ●おすすめカメスポット

多くのカメは、川の淀みや池など流れが穏やかな場所に暮らしています。水中にいるカメを見つけるのは難しいので、晴れた日に岸辺で日光浴をしているのを探すのが良いでしょう。特に大きな池で見つけやすく、市内では西平山にあるさいかち堰がおすすめです。池の中の倒木の上で思い思いの恰好で休み、時に場所取りのために押しあう姿をのんびり観察するのも楽しいですよ。一方で、圧倒的な外来種のカメの多さに複雑な気持ちにもなります。これらは全てペットが捨てられたり逃げ出したりしたのが元です。数十年は生きるとされるカメを飼育するには、長年を共に過ごす覚悟も必要です。

### あとかき

今号では初めて「身近な水環境の全国一斉調査」について記事を掲載しました。実はこの調査には日野市環境共生部緑と清流課として10年以上参加をしてきました。市内を流れている多摩川、浅川、谷地川で合計4か所において水質の調査を行っています。毎年、世界環境デー（6月5日）に合わせてその前後の日程で行っており、また、晴天の日に行っており、また、日中の気温が高くなってきたことに気づきます。私にとっては水の綺麗さと同時に夏の訪れを感じる一つの風物詩です。

一斉調査には、参加申し込みをすることで調査キットが送られてきて、個人でも団体でもどなたでも参加することができます。来年度から皆さまもぜひ参加してみたいかがでしょうか。

